

研究調査報告書

教科名 (書写)

項目	新しい書写 (東京書籍 2)
教育基本法 学校教育法 の下の中学 校学習指導 要領の教科 の目標との かかわり	<p>○1年の基礎から積み上げていく形態になっており、3年までに多様な文字を効果的に書くことが出来るよう工夫されている。</p> <p>○基本点画が身につくよう、「書くときのポイント」の中に文字を整えて書くための学習要素が色や点線で示されている。穂先の向きがわかるように所々写真で示している。</p> <p>○学習を生活に広げるための手順が明確で、自分で考えさせたり、調べたり、確かめたりしながら目標にたどり着けるように工夫されている。</p>
特色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○毛筆の技能を視覚的に捉えるため2色の淡墨図を用いて穂先の通り道を示したり、始筆をトン・送筆をスー・終筆をピタッと擬音で表現して基本点画をイメージしやすくしている。</p> <p>○穂先の向きを筆の写真で示したり、解説文で表したりしている。</p> <p><思考力・判断力・表現力等を育成する工夫></p> <p>○生徒自身で課題を見つけ解決できるよう、目標→練習→振り返り→活用→発展という系統的な学習の進め方になっている。</p> <p>○「書くときのポイント」によって文字を整えて書くための要素を示し、それぞれのポイントを確かめながら書くように工夫されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「しょしゃのたね」「しょしゃのつぼ」で関連内容を考えて学習できるようになっており発展学習につながる工夫がなされている。</p> <p>○身近にある文字をカラーで紹介し、書かれた目的や対象や工夫されていることを考える教材を通して日常生活の中の文字に興味・関心を抱かせる工夫がなされている。</p> <p><国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫></p> <p>○国語で学んだ古典作品・詩歌・手紙・名言・二十四節気の言葉を様々な筆記用具で書くなど、言葉を文字に託して見る者に作り手の心を伝えようとしている。</p> <p>○漢字の成り立ちと移り変わり・ひらがなへの変遷がわかりやすく示されている。</p> <p>資料</p> <p>○筆記用具・姿勢・持ち方・扱い方が巻頭にわかりやすく掲載されているとともに、用紙・用具の製作過程がカラーで紹介されている。</p> <p>○常用漢字表と人名用漢字表が五十音順に楷書体と行書体で示され、作品作りに役立つ工夫がなされている。</p> <p>○ポスター・手紙・新聞・ノートなど日常生活で役立つ書写の実例が多数紹介されている。</p> <p>表記・表現</p> <p>○「目標」「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「参考ページ」という学習過程の説明が共通のマークによって示されている。</p> <p>○筆記用具を示す記号も使われ、効果的に表現するための工夫がなされている。</p>
総括	<p>AB判。毛筆では「書くときのポイント」が示され確かめながら書けるようになってきている。私たちの身の回りにある文字に興味・関心を高められるように、文字に関する様々な情報が豊富な写真・資料によって効果的に示されている。また、日常生活の中で生かせる書写の活動が出来るような教材が非常に多く、大人になってからも役立つ発展的な内容になっている。</p>

研究調査報告書

教科名（書写）

項目	中学校 書 写（学校図書・11）
教育基本法 学校教育法 下の中学 校学習指導 要領の教科 の目標との かかわり	<p>○文字のバランスや配置の理解のために、紙面を点線で区切ったり、運筆の理解のために筆順を赤で記し矢印で筆の動きを示したりする工夫がなされている。</p> <p>○硬筆では、1マスを4つの部屋に分け、始筆や送筆、終筆を意識させている。</p> <p>○我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるように「資料」や「硬筆に生かそう」で、日本の古典や文学作品が手本として取り扱われており、生徒の興味や関心を高める工夫がされている。</p>
特 色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○毛筆の基本の筆使いが墨の濃淡を使って示され、手本に点線・矢印・筆順・中心を赤字で書き加えて、分かりやすく解説している。</p> <p>○点画の基礎・基本を身に付けるため、うつつ書きや教科書に直接書き込む欄を多く設けている。硬筆では字形や漢字と仮名の調和など、段階的に学習できるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年ごとに段階的に学習できるよう構成されており、課題を意識しながら取り組めるようになっている。</p> <p>○日常生活や学習活動で生かせるように、メモの取り方や手紙・原稿用紙の書き方などを取り上げ、様々な筆記用具で、表現効果を考えて書かせる教材を設定している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○主体的に取り組めるようにキャラクターの吹き出しの言葉で学習のヒントを与えたり、自分の課題に合わせて練習できるよう練習用紙の工夫例を挙げたりしている。</p> <p>○発展として「臨書を体験しよう」と「篆刻を体験しよう」のコーナーが設けられ、芸術書道へとつなげられるようになっている。</p> <p><国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫></p> <p>○我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるように、「竹取物語」や「枕草子」などの古典や、俳句・短歌・ことわざなどについて取り上げている。</p> <p>○「書写の窓」で、さまざまな字体や平仮名と片仮名の成り立ちについても説明している。</p>
資 料	<p>○巻末の漢字一覧表が行書で紹介され、日常にも応用できるように配慮されている。</p> <p>○読みやすくするために書き文字とは違う表し方をしている活字について説明している。</p> <p>○裏表紙に、保護者に向けた「この教科書でめざすこと」を載せることで家庭との連携を図っている。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○学習しやすいようにキャラクターが学習のポイントを示し、マーク・吹き出しを効果的にレイアウトすることで、見やすくなる工夫をしている。</p> <p>○毛筆教材では、2文字以上の手本は原寸大とし、大きさや位置を視覚的に捉えることができるようになっている。</p>
総 括	<p>毛筆の後に硬筆が設定されている。硬筆は書き込みができるようになっていて、行書の学習では、毛筆での学習が硬筆の学習に発展できるよう工夫されている。楷書の基本の点画を分かりやすく掲載している。原寸大の手本が見やすく、キャラクターの吹き出しによって、ポイントをしばって主体的に学習ができるようになっている。</p>

研究調査報告書

教科名（書写）

項目	現代の書写（三省堂・15）	
教育基本法 学校教育法 の下の中学 校学習指導 要領の教科 の目標との かかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な点画の書き方が身に付くように、朱墨と薄墨で穂先の動きが分かるように示し、穂先の向きが分かるように連続写真で示している。 ○書写への関心を高めるように、書き方のポイントを多く示している。 ○国語への関心を高め、日常生活に生かせるように、「生活に生かそう」のコーナーを学年ごとに設定し「書き文字」を多く取り上げている。また、年賀状や書き初めの起源を紹介することで、暮らしの中の文化としての「書くこと」に関心をを持たせるように工夫されている。 	
特色	<p>＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆と硬筆、行書と楷書を並べて掲載しているため、関連性や整合性が分かりやすい。 ○学習したことを書いて確かめたり、振り返ったりできるように、硬筆で教科書に書き込める欄を設けている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本点画の学習では、書き方のポイントが大きな文字で書かれており、課題を意識しながら取り組ませる工夫がなされている。 ○思考力を高めるために、「考えよう」「話し合おう」のコーナーが毎教材、設定されており、課題を意識しながら取り組めるようになっている。 <p>＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「自分の文字や書き方をよりよくするために」で、方法が具体的に示されている。 ○「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」「生活に生かそう」と、学習の流れが明確になっている。 <p>＜国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平仮名の楷書は「いろは歌」、行書は五十音図で示されており、それぞれ漢字が平仮名に変化していく過程が添えられているため、理解しやすくなっている。 ○「生活に生かそう」「効果的に書こう」の単元では、手紙や卒業記念冊子などの取組を題材に、生活と書写との関連を図っている。 	
	資料	<ul style="list-style-type: none"> ○筆や紙・硯などの製作過程を紹介し、歴史的な知識を深めるよう工夫されている。 ○巻末の漢字一覧表は、小学校で学習した漢字と中学校で学習した漢字が、楷書と行書の両方で示されている。 ○日常生活に密着した「書き文字」が多く掲載されている。
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きのページの左側にお手本、右側に書くときのポイントと硬筆の書き込み欄が見やすく設定されている。 ○学習のヒントをキャラクターが吹き出しで示していて、課題が解決しやすくなっている。 ○用具や使用時の姿勢・持ち方などが具体的に写真や図で示されている。
総括	<p>「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」という学習過程を明確に示している。「生活に生かそう」では、日常生活でも活用できるように、手紙の書き方や掲示物の書き方など、教材を多く提示している。大きな文字やキャラクターで分かりやすく主体的に楽しく学べるよう工夫されている。</p>	

教科名 (書写)

項 目		中学書写 (教育出版 17)
教育基本法 学校教育法 下の中学 校学習指導 要領の教科 の目標との かかわり		<p>○各学年ごとに学習目標を定め、様々な筆記用具を使って試し書きやまとめ書きをしながら課題解決にむかい、書く力を養うという学習の進め方になっている。</p> <p>○基本点画が身につくように淡墨と朱墨の連続写真を使って説明している。筆圧は番号とその大きさを示している。穂先の向きは青の穂先マークで示している。</p> <p>○文字を書くことの目的や相手、表現効果を明確にできる筆記用具の選び方なども示しながら、身の回りにある文字に関心を持たせる工夫がなされている。</p>
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○毛筆の技能が視覚的に捉えられるよう、2色の淡墨図を用いて穂先の通道を示している。</p> <p>○筆圧の加え方を数字で表し、筆脈が分かるように点線で示している。</p> <p><思考力・判断力・表現力等を育成する工夫></p> <p>○生徒自身で課題を見つけ解決できるよう、試し書き→考えよう→まとめ書き→振り返ろう、という系統的な学習の進め方になっている。</p> <p>○様々な筆記用具を使って、表現効果を考えながら書かせる教材を扱っている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○発展学習を取り入れ、古典作品や有名作家の直筆原稿、日常生活に活かせる掲示物などをカラーで紹介し、興味・関心を抱かせる工夫がなされている。</p> <p><国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるための工夫></p> <p>○書写学習の構図をわかりやすく木の図で示すことで、国語で学んだ文章や語句が効果的な文字によって人と人をつないでいることを明らかにしている。</p> <p>○古典・詩歌・手紙・掲示物などを扱うことで、国語で学んだ様々な言葉を文字に託して見る者に作り手の心を伝えようとしている。</p>
	資 料	<p>○小学校で学習した漢字の行書一覧表が、共通する偏や旁ごとに配列され示されているので実用性が高くなっている。</p> <p>○有名作家の直筆作品や古典作品・日常生活に活かせる掲示物・芸術としての書道作品などがカラーでわかりやすく紹介されている。</p>
	表 記 ・ 表 現	<p>○「振り返ろう」という自己評価欄が設けられ目標達成から日常生活へと活かせるように工夫されている。</p> <p>○穂先マーク、朱墨、淡墨を使い分け、穂先の通道がわかるように示している。</p> <p>○筆記用具を示す記号を使い、文字を効果的に表現できるよう工夫されている。</p>
総 括	<p>私たちの身の回りにある文字に興味・関心を高められるように、文字に関する様々な情報が豊富な写真・資料によって効果的に示されている。また、日常生活の中で活かせる書写の活動が出来るような教材も多く、芸術書道への発展的な学習につなげられるようになっている。</p>	

教科名（書写）

項 目		書 写（光村図書・38）
教育基本法 学校教育法 の下の中学 校学習指導 要領の教科 の目標との かかわり		<p>○基本的な点画の書き方は、筆使いを理解するために「朱墨」と「薄墨」を使い分け説明している。穂先の向きが分かるように、穂先のマークを図で示している。</p> <p>○国語を尊重する態度を育てるために、国語で学習した古典作品や俳句をコラムや例文で用いるなど、国語教材と関連した学習内容を盛り込んでいる。</p> <p>○「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」という学習の流れを示したり、文字の歴史や筆記具などにも触れたりして、主体的に学びを深められるようにしている。</p>
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○毛筆と硬筆、行書と楷書を並べて掲載しているため、関連性や整合性が分かりやすい。</p> <p>○毛筆を学習した後、同じ文字を硬筆で書くようになっており、技能の習得が確実なものになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○思考力・判断力を高めるために、「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」という流れで、主体的に学習を進められるようになっている。</p> <p>○発展教材として書体まで紹介し、文字を効果的に使うよう工夫されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○楷書、行書共に豊富ななぞり書きを中心に、書き込み部分を多く設定し、見開きのページで硬筆・毛筆の練習ができるため、見通しを持った学習ができるようになっている。</p> <p><国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫></p> <p>○文字の歴史について篆書から楷書までを、平仮名・片仮名と併せて取り上げ、実物大の手本で作品を作り上げる意欲をわかせるようにしている。</p> <p>○俳句・短歌（和歌）・「平家物語」・「枕草子」・「雪国」等、幅広い作品を扱い、見る者に作り手の心を伝えようとしている。</p>
	資 料	<p>○常用漢字を五十音順で楷書と行書を並べて提示しているため、書き方が分かりやすく、なっており、部首別行書一覧によって実用性が高くなっている。</p> <p>○手紙・原稿用紙・ポスター・レポート・新聞・黒板など、生活に密着した「書き文字」が多く写真入りで説明されているので、自由に選択できるようになっている。</p>
	表 記 ・ 表 現	<p>○穂先マークを付け、朱墨と薄墨を使い分けることで穂先の向き、筆圧、筆脈、穂先の通り道が分かりやすくなっている。</p> <p>○字や行の中心を、上下にある小さな赤い三角形で示してある。</p> <p>○各教材ごとに、「学習を振り返る」という自己評価欄が設けられている。</p>
総 括	<p>教材ごとに目標が示され、学習活動を通して自己評価につながる学習の流れが分かるようになっている。楷書と行書の使い分けの単元では、場面に適した書き方を考えさせることで、より実生活に生かせるようにしてある。書写辞典として行書と楷書・部分別行書一覧が設けられているので、行書を実用的に伝えるようになっている。</p>	